

ダチョウ抗体

校長 齋藤 恵

毎日マスクを着けて生活することが、今では私たちにとっての日常になりました。マスクにも不織布やガーゼ、布など色々な形や種類があります。感染拡大防止、そして収束のためにはまだまだ外せないアイテムです。

数年前からでしょうか。メディアなどでも緑色の小さなダチョウのロゴがプリントされたマスク『ダチョウ抗体マスク』が話題になっています。すでにお使いの方がいらっしゃるかもしれません。

ダチョウが作り出す抗体は、ウイルスやバクテリア等の病原体等の活性化を抑制する能力が非常に高いのだそうです。ダチョウの卵から抗体を取り出し、感染症予防に寄与する研究で注目されてきたのは、京都府立大学の塚本康浩学長です。獣医師でもある塚本学長は、ダチョウの卵から新型コロナウイルスの抗体を抽出し、ウイルスを不活性化する抗体成分を染み込ませたマスクやスプレーを開発し、商品化しました。

塚本学長は、もともと小さい頃から鳥が好きで、たくさん種類の鳥を飼っていました。子供の頃に可愛がっていた桜文鳥を死なせてしまったことがきっかけで獣医の道を志したそうです。そして、いつしか鳥の中でもダチョウの魅力に夢中になり、ダチョウ牧場の主治医になりました。現在、大学の部屋の中には塚本学長が治療した何羽もの鳥たちが飛び交っており、大学構内では経営難の牧場から引き取った50羽のダチョウが飼育されているそうです。

ダチョウの脳はその眼球よりも小さく、飼育している塚本学長の顔もすぐに忘れ、攻撃さえしてくるとか。しかし、大きな体に2本の丈夫な足を持ち、時速60kmで1時間以上走ることができるといいます。視力はなんと20以上、40m先を歩いているアリが見えるということです。そんな優れた能力をもったダチョウに憧れた塚本学長の気持ちがわかるような気がします。

しかも、ダチョウは怪我をしてもすぐに治り、病気にかかることも少なく、60年も長生きすることがわかっています。その驚異的な免疫力、回復力が感染症に強いのではないかと、ということに塚本学長は気付きます。そして、そこからダチョウ抗体の研究を始めたのです。

ダチョウの卵はニワトリの卵の約20～25倍。とすると、そこからは大量の抗体が取り出せることとなります。これまでの研究が、花粉症、インフルエンザ、エボラ出血熱等ウイルスに打ち勝ってきたように、将来的に多くの人の命を救う有効な手立てになることを期待せずにはられません。

現在、塚本学長は、新型コロナウイルス感染予防を考えて、ダチョウ抗体を混ぜたキャンディを作り、海外のボランティアと協力し、十分な医療が受けられない地域の子供たちに配布する活動を行っているそうです。「キャンディなら簡単に口に入れられるから。」鳥に対してだけでなく、人に対しても愛のある人物だと感じたのは、オカメインコを飼っている私の個人的な感想です。

6月行事予定

1	火	安全指導・点検 水泳指導始(プール開き)	▲
2	水	B時程4時間	▲
3	木	尿検査(3次)	▲
4	金		▲
5	土	土曜授業日 相談日 道徳授業地区公開講座(6月Aグループ)	▲
6	日	校庭開放午後なし	▲
7	月	全校朝会 体力調査始 あいさつ週間 始	▲
8	火	体力調査終	▲
9	水	B時程4時間	▲
10	木	体育朝会	▲
11	金	終	▲
12	土	校庭開放午後なし	▲
13	日	校庭開放午後なし	▲
14	月	全校朝会 避難訓練(朝会時) クラブ活動	▲
15	火	脊柱側弯症検診(5年)	▲
16	水	B時程5時間	▲
17	木	集会	▲
18	金	通常時程5時間授業	▲
19	土	土曜授業日 相談日 道徳授業地区公開講座(6月Bグループ)	▲
20	日	校庭開放午後なし	▲
21	月	全校朝会 歯科検診(4、6年)	▲
22	火	歯科検診(1、3年)	▲
23	水	B時程5時間	▲
24	木	B時程6時間 歯科検診(2、5年)	▲
25	金	教育実習終	▲
26	土	校庭開放午後なし	▲
27	日	校庭開放午後なし	▲
28	月	全校朝会 避難訓練予備日 巡回相談	▲
29	火		▲
30	水	B時程5時間 定期健康診断終	▲

▲は放課後遊びなし、○はあります。

6月の生活指導目標

「健康で安全な生活をしましょう」

生活指導部 北原 有子

6月は季節の変わり目となり、体調を崩しやすい時期でもあります。調節しやすい服装を心がける、ハンカチ・タオルで汗を拭くなどご家庭でも声掛けをお願いします。また梅雨に入ると校内が滑りやすくなります。教室、オープン、階段やピロティでの過ごし方を各学級でもう一度確認し、安全に生活できるよう努めて参ります。

そして6月は触れ合い月間です。いじめの未然防止・早期発見のためにも、気になることがあれば、いつでも学校にご連絡ください。